

# 学科試験 攻略ガイド

学科試験を突破しない限り、面接や小論文対策を練っても水の泡。入試の基本や試験の傾向を、  
医系専門予備校「メディカルラボ」のスペシャリストが解説する。

出成文/加藤弥

監修 山本雄三

メディカルラボ情報研究所長  
メディカルラボ福岡校の校長を経て現職。医学部入試情報を収集・分析し、カリキュラムや指導に反映。同予備校編集『全国医学部最新受験情報』の企画・構成も担当する。

## 国公立大と私大で違う

### 一般人試の基礎知識

医学部入試は、国公立大と私立大で方式と科目が異なる。

国公立大は、まずセンター試験を受験し、次に面接などを含む2次の個別試験を受験して合否が決まる。センター試験は5教科7科目、前期試験は3教科4科目が基本だ。後期試験では学科試験がなく、面接・小論文のみ課されるのが主要パターンとなる。

私立大には「一般方式」と「センター試験利用方式」があり、多くの受験生は募集人員が多い一般方式を選ぶ。

私立大の一般方式は、学力

検査による1次試験と、面接・小論文などによる2次試験を経て結果が出る。1次試験は3教科4科目が典型的なパターンだ。解答形式は「マークシート式」「選択式」「記述式」「併用式」など、大学によってさまざまである。

一方のセンター試験利用方式は、1次試験をセンター試験で代用し、2次試験で面接や小論文を課するのが一般的だ。

### 高2までに基礎学習

#### 高3後半が勝負

医学部受験生が最初に直面するのが学習量の多さだろう。ここで勉強の取り組み方に触れておこう。

高1・高2では、英語と数学を徹底的に学習し、基礎学力を身につけたい。

国公立大を志望する場合は、国語や地歴公民の基礎学力も養っておきたい。苦手な科目や分野を克服できるように、早めに計画を立てておくといい。

高3では、夏休みが終わる頃までに数学と理科の出題範囲を一通り学習しておきたい。そして、

志望大学の過去問演習に取り組み、出題形式や内容、問題の難易度や分量などを把握する。同じ問題集や参考書を繰り返して勉強し、受験に備えたい。

表1 医学部の一般的な入試科目

国公立大学

センター試験	英語、数学（ⅠA・ⅡB）、理科（物理・化学・生物の中から2科目）、国語（現代文、古文・漢文）、地歴公民（1科目）
2次試験（前期）	英語、数学（ⅠAⅡBⅢ）、理科（物理基礎+物理、化学基礎+化学、生物基礎+生物の中から2科目）※一部大学は国語必須 面接

私立大学

1次試験	英語、数学（ⅠAⅡBⅢ）、理科（物理基礎+物理、化学基礎+化学、生物基礎+生物の中から2科目）
2次試験	面接・小論文

表2 受験勉強のモデルパターン

	高1・高2		高3	
			4~8月	9月~直前
英語 数学	英語と数学に比重を置く ●英語の基礎力養成 ●数学ⅠA・ⅡBの基礎力養成 ●苦手分野克服		●英語の標準力養成 ●長文問題対策（遠読含む） ●数学ⅠA・ⅡBの標準力養成 ●数学Ⅲの基礎力・標準力養成	●応用力養成 ●過去問演習
理科	●基礎科目と専門科目の基礎力養成			●標準力と応用力の養成 ●過去問演習
国語 地歴 (国公立大)	●基礎力養成		センター試験 標準問題演習	センター 試験過去 問演習